ハーフクローラトラクタ

取扱説明書

GXK401　GXK511



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

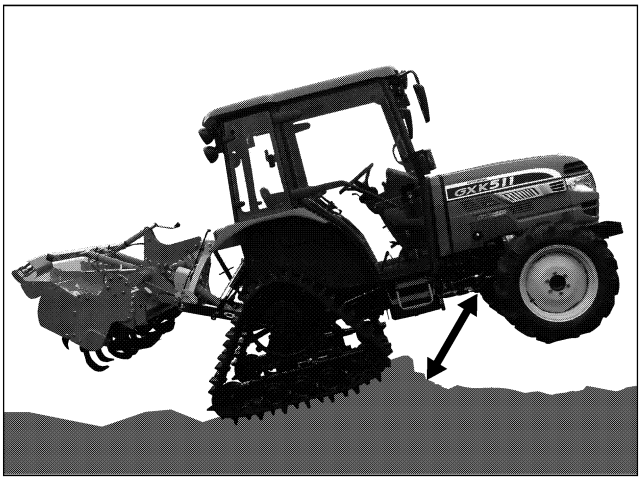
本取扱説明書はホイールトラクタ(タイヤ仕様)との異なる点のみをまとめて説明しています。その他の項目は，［GX371～GX511の取扱説明書］をご覧ください。

1．安全作業の為に

ハーフクローラトラクタはホイールトラクタ（タイヤ仕様)と異なりますので，この［安全作業の為に］をよく読み，ご理解の上，使用してください。

⚠ 運転する時は…

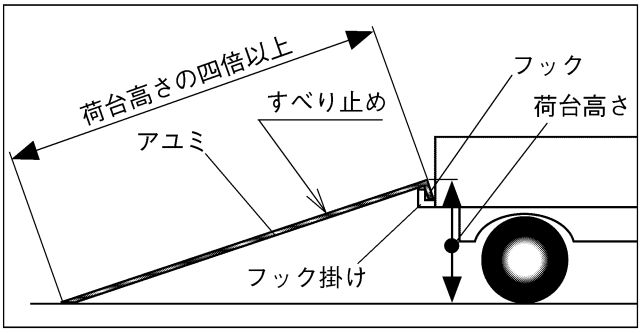
⚠注意 クローラ部が凸部を乗り越える時は，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。また，凸部を斜めに乗り越えるとクローラが外れる場合がありますので，凸部に対して直角に乗り越えてください。



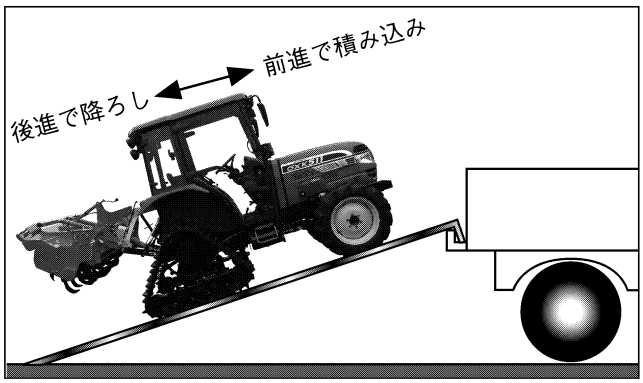
⚠ 自動車への積み込み・積み降ろしをする時は…

⚠警告 アユミは，機械の質量に耐える強度・幅（クローラがはみ出さない幅）・長さ（荷台高さの四倍以上）のあるすべり止め及びフック付きのものを使用し，ハーフクローラトラクタの質量でアユミが傾いたりしない場所を選んでください。

⚠警告 トラックは荷台後部にアユミのフックを掛ける構造になっているものを使用してください。



⚠警告 トラックへの積み降ろしは，必ず左右のブレーキペダルを連結し前進で積み込み，後進で降ろしてください。前進で降りると，クローラがアユミの段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し転倒事故につながる恐れがあります。また途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

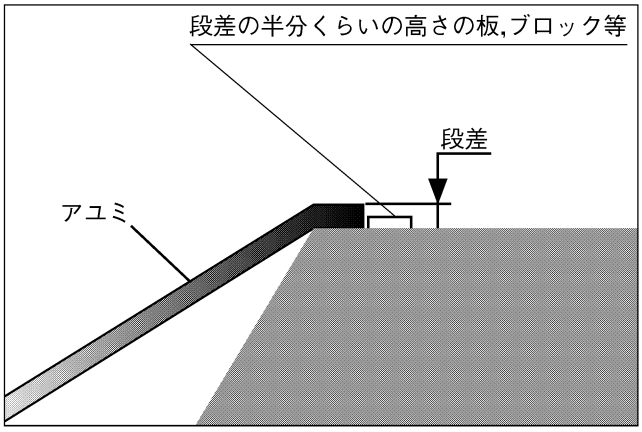


⚠警告 クローラがアユミの段差に引っかかり，アユミに乗り上げない場合は，いったん機械を元に戻し，アユミをかけ直して，段差の半分くらいの高さの板，ブロックをアユミの前に置いて，段差を少なくしてからやり直してください。

⚠ ほ場で作業をする時は…

⚠警告 アユミはすべり止め及びフック付きのものを使用し，左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。

⚠警告 アユミとアユミを掛けた面との段差が大きい場合クローラがアユミの段差に引っかかり重大な事故を引起す原因になりますので，段差の半分くらいの高さの板，ブロック等を置いて段差を少なくしてから低速で運転してください。



⚠警告 ハーフクローラトラクタは，左右に大きな段差のある状態で作業や旋回を行なうと，クローラが外れる場合があります。プラウ作業などで片側のクローラを溝に落としての作業は行わないでください。

⚠注意 積雪，凍結路面では非常にスリップしやすくなります。坂道での走行や傾斜地での作業はスリップに注意してください。

⚠注意 極寒地での作業はゴムクローラの材質が変化し寿命を縮めます。−25℃～55℃の範囲で使用してください。

⚠注意 ゴムクローラに燃料，オイル等が付着した場合は直ちに拭き取ってください。
そのままにしているとクローラの劣化につながります。

2．仕様（装備）について

主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明していますので，お買い上げの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，本書と内容および写真・イラストなどの一部が，本製品と一致しない場合がありますのでご了承ください。

	型　式　名			三菱GXK401	三菱GXK511		
	区　　分			XV	UV	XV	XUV
仕様	エンジン	エンジン型式		S4L3－12A	S4Q2－T11A	S4Q2－T11A	S4Q2－T11A
		エンジン出力 kW(PS)		29.4（40）	37.5（51）	37.5（51）	37.5（51）
	ステアリング	パワーステアリング		○	○	○	○
		チルトハンドル		○	○	○	○
		倍速旋回		○	○	○	○
		オートブレーキ旋回		○	○	○	○
	PTO	標準		○	－	○	－
		e-PTO		－	○	－	○
	変速	e-shift		○	○	○	○
	油圧制御	e-mac		○	○	○	○
	おまかせMAC			○	○	○	○
	２柱フレーム			－	○	－	－
	キャビン			○	－	○	○
	タイヤ・クローラ	標準	前　輪	8.3－20	8.3－20	8.3－20	8.3－20
		ハイラグ	後　輪	ハイラグクローラ	ハイラグクローラ	ハイラグクローラ	ハイラグクローラ

・型名記号の説明

X＝デラックスキャビン（エアコン付）

V＝e-mac（高機能型MAC）＋e-shift（ノンクラ車）

U＝e-PTO

3．運転前の点検

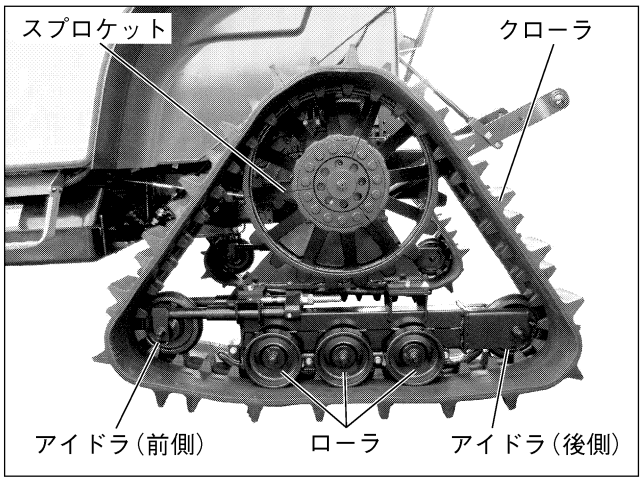
❶　ゴムクローラの張りと亀裂，損傷が無いかを点検します。クローラの張りが緩い場合は適切な張りに調整します。（4ページ参照）

大きな亀裂や損傷がある場合は**「お買いあげ先」**で交換を行なってください。

❷　スプロケットの摩耗を点検してください。

❸　可動部分やゴムクローラへの石等のはさみ込みが無い事を確認し，はさまっている場合は取除いてください。

❹　各部のボルト，ナットの緩みが無いか，点検してください。



4．運転操作のしかた

⚠警告　凸凹やカーブの多い所では，高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなる恐れがあります。

❶　ほ場での旋回は速度を下げ，ハンドルとブレーキ（片ブレーキ又は倍速旋回・オートブレーキ旋回）を併用してください。

❷　片側クローラをロックしての急旋回は，ほ場を荒しますので，切返しでの旋回をお勧めします。

❸　機械保護の為，運転中に急発進，急停止，急旋回等，無理な操作はしないでください。

❹　重けん引作業を行なう時は低速で行なってください。

5．定期点検整備表

機械の点検整備につきましては**[GX371～GX511の取扱説明書]**の**90ページ**から始まる**「手入れのしかた」**を参照してください。ここでは，ホイールトラクタと異なる点のみ説明いたします。

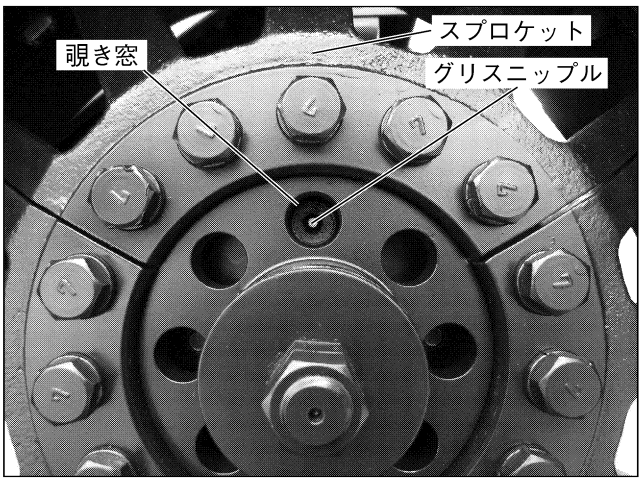
点検整備項目	整備内容	点検時間			備考
		運転前	50時間毎	150時間毎	
クローラ	点検	○			4ページ参照
アイドラ,ローラのオイルシール	点検	○		○	油モレ,損傷がある場合交換
アイドラ,ローラのオイル注入	補給			○	
ホルダのグリス注入	点検補給	○（点検）	○（補給）		50時間毎補給

6．給油給脂個所

⚠警告　掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

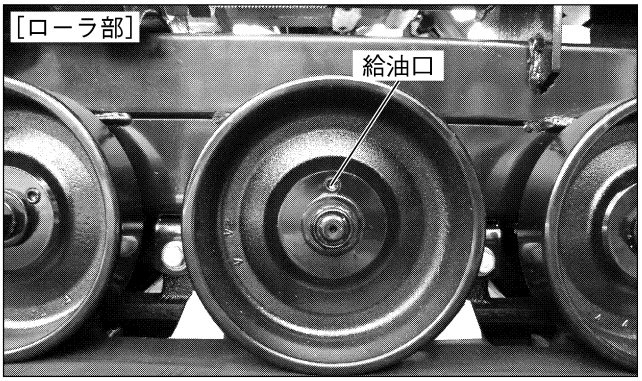
❶　50時間毎にホルダーにグリス給脂してください。機械を動かして，フランジの覗き穴をグリスニップル正面に合わせ，グリスガンを使用してグリスニップルへ補給してください。

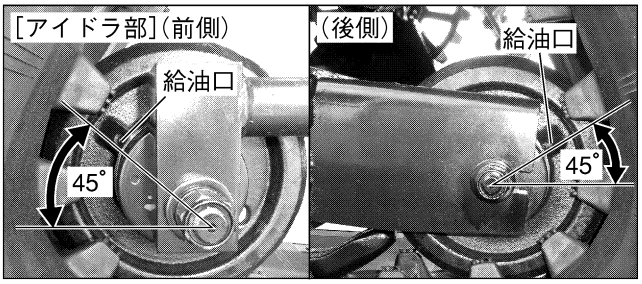
[ホルダー部]



❷ 150時間毎にローラ，アイドラにオイルを給油してください。補給時はローラは給油口を最上位置，アイドラは上斜め45°程度の位置にし，オイル差しでオイルがあふれ出るまで補給してください。

給油栓は締付時ネジ部にシールテープを巻いてください。





7．クローラ部の点検

⚠警告 **掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。**

⚠警告 **ゴムクローラを張りすぎないでください。また緩めすぎないでください。ゴムクローラが転輪から外れたり，断裂して死傷事故につながることがあります。**

❶ ゴムクローラに亀裂，損傷が無いか点検し，大きな亀裂や損傷がある場合は「**お買いあげ先**」で交換を行なってください。クローラのたわみが大きいときは張り調整を行なってください。

❷ ローラ，アイドラ，スプロケット，クローラガイドに損傷又は変形が無いか点検し，損傷又は変形がある場合は「**お買いあげ先**」で交換を行なってください。

❸ ローラ，アイドラのオイルシールは，150時間毎に点検し，異常がある場合は「**お買いあげ先**」で交換を行なってください。

❹ 可動部分やゴムクローラへの草の巻付き，石等のはさみ込みが無い事を確認し，はさまっている場合は取除いてください。

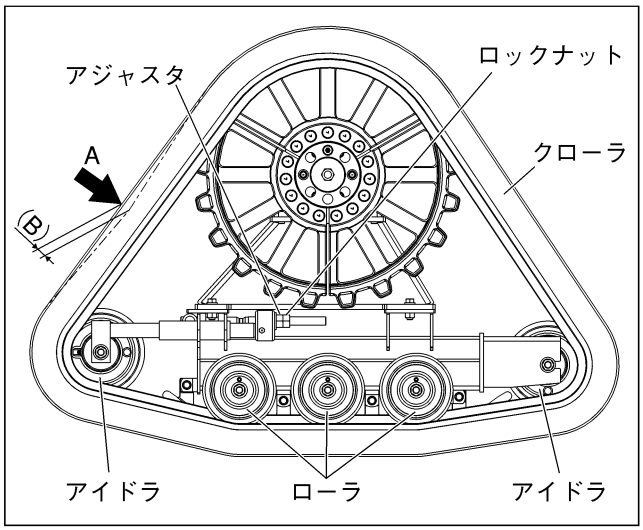
❺ 各部のボルト，ナットの緩みが無いか，点検してください。

❻ **クローラの張り調整**

⚠注意 **クローラが緩んだままで使用すると，走行中にクローラが外れるおそれがありますので，定期的に点検を行ない，常に適切な張りで使用してください。新車時やクローラ交換直後20時間程度は初期のびしますので始業時には張りの調整を行なってください。**

・クローラの(A)部を**196N～245N(20kgf～25kgf)**の荷重で押します。

この時ゴムクローラのタワミ（B）が**10～15㎜**になるようにアジャスタを回して調整します。左右のクローラの張りがほぼ同じになるように調整してください。調整後は確実にロックナットで固定してください。



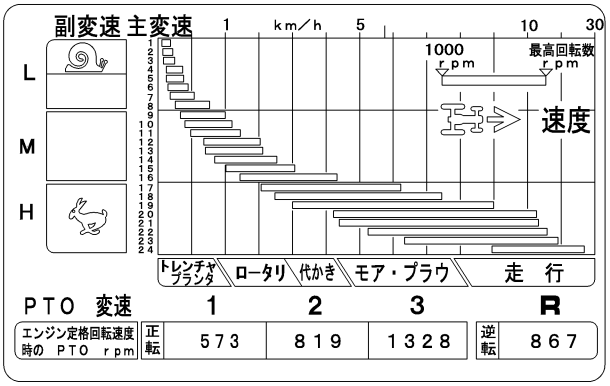
8．主要諸元

名称			三菱GXK401	三菱GXK511		
型式名			三菱GXK400	三菱GXK510		
区分			ＸＶ	ＵＶ	ＸＶ	ＸＵＶ
駆動方式			4輪駆動（後輪クローラ）			
機体寸法	全長（㎜）（ロワリンク先端）		3405	3520		
	全幅（㎜）		1680			
	全高（㎜）		2310	2435	2310	
	最低地上高（㎜）		370			
機体質量［重量］（kg）			2275	2095	2330	2335
エンジン	型式名		Ｓ4Ｌ3－12Ａ	Ｓ4Ｑ2－Ｔ11Ａ		
	種類		水冷4サイクル4気筒ディーゼル			
	総排気量（Ｌ{cc}）		2.216｛2216｝	2.505｛2505｝		
	出力／回転速度（kW｛PS｝／rpm）		29.4｛40｝／2600	37.5｛51｝／2600		
	使用燃料		ディーゼル軽油，JIS 2号，3号，特3号			
	燃料タンク容量（Ｌ）		55			
	バッテリ（Ｖ・Ah）		95D31R　12・64			
走行部	前輪		8.3－20－4PR			
	ゴムクローラ	パターン	ハイラグ			
		接地長（mm）	1065			
		幅（mm）	400			
		リンク数	39			
		ピッチ（mm）	90			
	接地圧（kPa｛kgf／㎠｝）		16.1｛0.16｝	14.4｛0.15｝	16.1｛0.16｝	
	緩衝方式		揺動式（±7°）			
	軸距（mm）		1930	1985		
	輪距	前輪（mm）	1250			
		クローラ（mm）	1280			
	クラッチ形式		乾式単板			
	ブレーキ形式		ディスク式（湿式）			
	かじ取方式		パワーステアリング（全油圧式）			
	変速方式		パワーシフト式			
	変速段数		前進24，後進24			
	走行速度	前進（km／h〔最高速度〕）	0.14～20.94〔21.8〕	0.16～23.25〔25.00〕		
		後進（km／h〔最高速度〕）	0.13～19.42〔20.2〕	0.13～19.42〔20.88〕		
	最小旋回半径（m）		2.9			
PTO	回転速度（rpm）	正転	573，819，1328			
		逆転	867			
	軸径（mm）		35（6スプライン）			
昇降作業装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装着方式		3点リンク　1型			

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

9．作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度及びPTO回転速度は作業内容，ほ場の条件によって異なります。
安全で最適な速度で運転します。



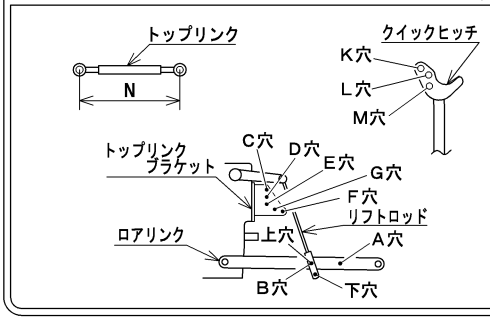
10．3点リンク

❶ 3点リンクの寸法はホイールトラクタと異なりますので，下記を参照してください。
・ロアリンク後方目玉の地上高(㎜)

		ロワリンク	前穴	後穴
リフトロッド	上穴	最上げ	920	使用不可
		最下げ	347	
		揚程	573	
	下穴	最上げ	852	933
		最下げ	254	450
		揚程	598	483

❷ 3点リンクの取り付け
3点リンクの取り付けは作業機によって異なりますので，下記の表と作業機の取扱説明書を参照し，取り付けてください。

ロータリ・ドライブハロー取付要領 ●ロータリを取付ける時は3点リンクを下表に合わせてください



装着方式（クイックヒッチ）	三菱スーパーヒッチ	松山ヒッチ		小橋ヒッチ		ササキヒッチ	スターヒッチ
		Sカプラ	Lカプラ	Sヒッチ	SVヒッチ		
リフトロッド取付穴	上	下	下	上	下	上	下
ロアリンク取付穴	B	B	B	B	B	B	B
トップリンクブラケット穴	F	F	F	F	F	G	E
トップリンク長さ（N） mm	490	490	530	510	490	537	562
クイックヒッチ取付穴	K	K	K	K	K	K	K

11. トレッド

・ハーフクローラトラクタは，前輪タイヤ，及び後輪クローラのトレッド調整はできません。

	タイヤ・クローラ		駆動方式	調整段数		前輪トレッド(mm)	後輪トレッド(mm)
	前輪	後輪		前輪	後輪		
GXK401 GXK511	8.3－20	ハイラグ クローラ	4駆	1	1	1250	1280

12. 給油・給脂・給水表

種別	No.	個所	種類	分類		容量(L)		交換時期	参照ページ
				APIサービス分類	SAE粘度番号	GXK401	GXK511		
ハーフクローラトラクタ	①	エンジン クランクケース	エンジンオイル	CF級 (またはCF-4, CH-4級)	10W－30	6.0	6.8	作業前点検・100時間毎交換 (初回点検時50時間で交換)	94～95
	②	燃料タンク	軽油	－	－	55		作業前点検(必要量補給)	96
	③	ラジエータ	冷却水	－	－	－	8.1	作業前点検(必要量補給) [２柱フレーム仕様]	98～99
						8.4	9.1	作業前点検(必要量補給) [キャビン仕様]	
	④	トランス ミッションケース	低粘度オイルL1339	GL－4	75W－80W	44		初回100時間, 後は200時間毎交換	8
	⑤	フロント アクスルケース	ギヤオイル	GL－4	80W	10.5		初回100時間, 後は200時間毎交換	101
	⑥	ブレーキリンク (左・右)	グリス	－	－	適量		作業前点検・ 50時間毎給脂	102
	⑦	ロッドエンド …４個所	グリス	－	－	適量		作業前点検・ 50時間毎給脂	102
	⑧	各ヒンジ部 [キャビン装備機]	ギヤオイル	－	－	適量		必要に応じて点検	102
	⑨	ウォッシャタンク [キャビン装備機]	ウォッシャ液 (市販品)	－	－	2.0		作業前点検(必要量補給)	102
	⑩	ローラー	ギヤオイル	GL－4	純正油 または80W	0.07		150時間毎に点検,補給 (必要量補給)	4
	⑪	アイドラ	ギヤオイル	GL－4	純正油 または80W	0.07		150時間毎に点検 (必要量補給)	4
	⑫	ホルダ	グリス	－	－	適量		作業前点検・ 50時間毎給脂	4

●エンジンオイル……三菱農機純正油

またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CF級（またはCF－４，CH－４級）

●燃　　料……ディーゼル軽油　JIS 2号（-10℃まで）

JIS 3号（-15℃まで）

JIS 特3号（-15℃以下）

●ギヤオイル……三菱農機純正油

またはAPI分類GL－４級以上，SAE・80W

※使用オイルの詳細は「GX371～GX511の取扱説明書」のP136「潤滑油について」を参照してください。

※参照ページの　　部は「GX371～GX511の取扱説明書」のページを示します。

13．ミッションオイルの点検と交換

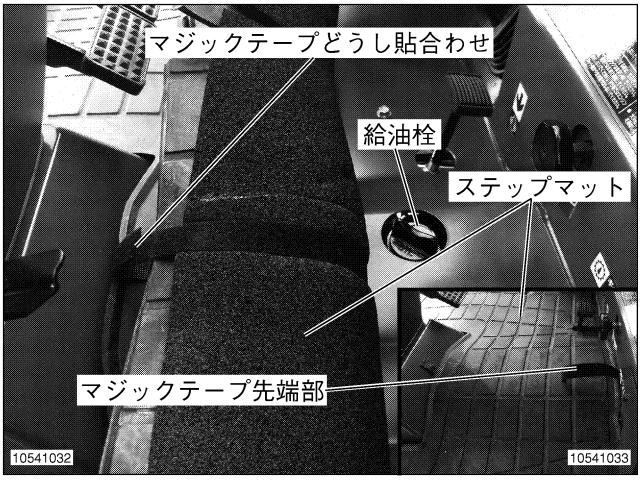
GXK401，及びGXK511のミッションオイルの点検と交換は，下記を参照してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ミッションオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶ 点検・補給の前に

・給油口での点検・補給をしやすくするため，ステップマット（キャビン仕様はスポンジ含む）の下にあるマジックテープでステップマットを丸めて（めくれが戻らないよう）固定します。



❷ 点検

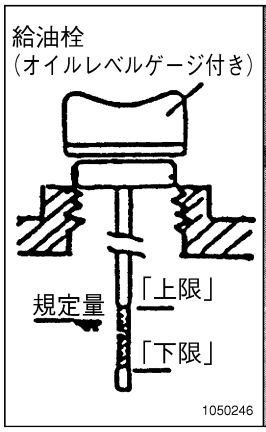
・給油栓を外し，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」から「**下限**」の間（規定量）まであれば適量です。

・エンジンを始動しているときは，オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して，５分以上たってから行います。

・エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

❸ 補給

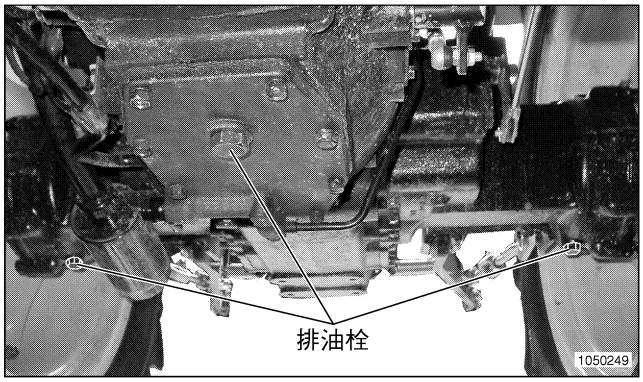
・不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。





❹ オイルの交換

⑴ ミッションハウジング中央下部及び左右のリヤアクスルケース下部の排油栓を外してオイルを抜きます。



⑵ 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**
- **トランスミッションオイルは，低粘度オイル　ダイヤモンドＬ－1339（SAE・75W－80W）をお使いください。**

